

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施]**【全体】**

・「本校に来てよかった」と回答した生徒が83.4%となり、増加傾向が続いている。また、「他の学校にない特色がある」「本校の取組は将来に役立つ」「共生社会に向け努力している」と肯定的に回答した生徒も増加傾向にあり、本校の教育に対する理解がさらに進んできていると評価できる。教職員の回答の肯定率も上昇しており、手ごたえを感じていると思われる。今後も学校として生徒の期待にしっかり応えていくことができるよう取組んでいきたい。

・「教職員が協力している」と回答した生徒が大幅に増加しており、教職員の回答の肯定率も80.6%まで上昇した。また、施設整備についての肯定的な回答も、生徒、教職員ともに増加している。引き続き協力協働の体制づくりや施設整備に努めていきたい。

・「地域との交流」については、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率が大きく低下している。コロナ禍の影響が如実に反映した結果であると考え。コロナ禍においてもできることを追求していく必要がある。

* 「本校に来て（行かせて）よかった」 生徒 83.4% 《昨年 82.7%》 保護者 90.2% 《昨年 92.4%》

* 「他の学校にない特色がある」 生徒 94.9% 《昨年 94.9%》 教職員 97.2% 《昨年 92.9%》

* 「本校の取組は将来に役立つ」 生徒 86.9% 《昨年 85.2%》 教職員 91.7% 《昨年 87.4%》

* 「共生社会に向け努力している」 生徒 91.8% 《昨年 90.5%》 教職員 83.3% 《昨年 78.6%》

* 「教職員が協力している」 生徒 73.9% 《昨年 66.2%》 教職員 80.6% 《昨年 73.2%》

* 「施設が整備されている」 生徒 74.2% 《昨年 71.0%》 教職員 75.0% 《昨年 69.6%》

* 「地域とかかわる機会がある」 生徒 44.1% 《昨年 59.8%》 教職員 63.9% 《昨年 73.2%》

【授業】

・「主体的な学習のための授業の工夫」について、生徒、保護者、教職員のすべてで若干ではあるが肯定率が低下した。コロナ禍で体験型学習やグループワーク等が制限されていることが要因なのかもしれない。

・「論理的に考え表現する力」「他者と協働する力」「探求する力」の育成に関して、教職員の肯定的回答が増加しており、しっかり取組まれてきたものと考え。今後もコアカリキュラムを中心にさらなる授業の活性化を学校全体でめざしていきたい。

・「家庭学習に向けての工夫」について肯定的に回答した生徒が増加している。1人1台端末の導入による成果だと考えられる。ICTの継続的な活用によりさらなる充実が期待できる。

* 「主体的な学習のための授業の工夫」 生徒 77.9% 《昨年 78.6%》 教職員 91.7% 《昨年 100%》

* 「論理的に考え表現する力が伸びている」 生徒 76.0% 《昨年 79.2%》 教職員 83.3% 《昨年 71.4%》

* 「他者と協働する力が伸びている」 生徒 84.4% 《昨年 86.4%》 教職員 94.4% 《昨年 87.5%》

* 「探求する力が伸びている」 生徒 83.8% 《昨年 81.7%》 教職員 83.3% 《昨年 82.2%》

* 「ICTの活用」 生徒 93.3% 《昨年 89.4%》 教職員 97.2% 《昨年 94.6%》

* 「家庭学習に向けての工夫」 生徒 56.5% 《昨年 49.4%》 教職員 36.1% 《昨年 44.5%》

【人権】

・「多様性を尊重し異なる考えの人ともコミュニケーションできる力の育成」について、教職員の回答の肯定率が91.7%まで上昇した。「学校開き」「クラス開き」「託すHR」の取組のサイクルをしっかりと根付かせ、違いを認め合える集団育成をいっそう進めていきたい。

* 「多様性を尊重し違いを認める力の育成」 生徒 85.2% 《昨年 87.6%》 教職員 91.7% 《昨年 87.5%》

令和4年2月8日

校長

【進路】

・「進路について考えるための必要な情報や機会の提供」について、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率が低下した。コロナ禍にあるからこそ、丁寧な情報発信に努めなければならない。

*「進路について必要な情報や機会の提供」 生徒 84.4%《昨年 86.5%》 保護者 80.5%《昨年 87.7%》

【生徒指導】

・「自分をコントロールする力（自律心）が育っている」と回答した生徒が増加傾向にあり、教職員の回答の肯定率も上昇している。コアカリキュラムをはじめとする授業のみならず行事や日常生活を通じて、生徒の主体性や規範意識をさらに高めていきたい。

*「進路について必要な情報や機会の提供」 生徒 79.8%《昨年 78.0%》 教職員 55.6%《昨年 50.0%》

【特別活動】

・コロナ禍における高校生活を余儀なくされる中、学校行事等も制限をかけられてきた。そのような状況のもと、「学校行事」に対する保護者の回答の肯定率は低下しているが、生徒会を中心にできることを精一杯頑張ろうとしてきた生徒の回答の肯定率はむしろ上昇している。生徒の主体的な活動をよりいっそう支援していきたい。

*「生徒会活動は主体的に行われている」 生徒 87.2%《昨年 79.3%》 保護者 74.8%《昨年 78.6%》

*「学校行事に楽しく参加できる」 生徒 82.3%《昨年 81.9%》 保護者 80.5%《昨年 86.0%》

【その他】

・「学校情報の発信」について、保護者の肯定的な回答が増加している。また、「教職員の働き方改革」に関する回答の肯定率も大幅に上昇している。いずれもオンライン化やICTの整備が進んだことによるものと考えられる。今後も継続して効果的な活用を図り、様々な取組を進めていきたい。

*「学校は情報を提供するために努力している」 保護者 75.6%《昨年 66.3%》

*「業務の効率化に努力している」 教職員 72.2%《昨年 60.7%》